

『全国改正市場法成立実現』の二つの) 仕事はね。全ての政党、党派を超越して動いたんです。その体験があるから、そう(自主立候補を) やっとるだけです。生意気なことをしとるんではないんですよ。あのご理解頂くとうれしゅうございます」

記者殿「経歴は」

吉村親房「この三つを取り上げて頂きたいです。私は(下関漁港生産卸売市場の)『社員代表』でございます。魚市場の。13回ね。これをやるために(魚市場から)改選を求められて、13回(社員代表に)選ばれています。朝日様は、絶対これを書かれないけれども、お願いしたいと書面に書いていますね。私、折衝代表者です。これは婦人が日本の憲法と労基法に夜働いたらいけないという時代に、これをやり上げた男です。(選別御婦人108名の)雇用主を決め、男女雇用機会均等法、女子保護法、男女共同参画法の礎を私が創った、拓いた男なんです。この吉村親房が。大袈裟じゃありません。

ですから、これ大事な履歴ですけど、長いから(記者の)皆さんお書きにならんのです。ですから、(経歴として)お取り上げ頂く場合は、『珠算暗算研究者』か、『社員代表』か『漁港選別婦人の折衝代表』というのは、私、命懸けた仕事でございます。できれば選別婦人の折衝代表者をお取り上げ頂くとね。ご有権者は分かると思います。何が大事かを。私は票を貰おうとかいう魂胆では動いておりません。そうしたら19回続きませんから、やらんといけんことをやっとるだけです」

記者殿「経歴、載せさせていただきます」

吉村親房「お願いします。温かくね。下関の人間が頑張っていますから、あのお願ひします」

「今、あの山口県もね。消費税アップ。先ほど申したように幼児とか、予算組まれてますけどね。自主予算ないでしょ。それはそれとして政権がやっておられますけどね。家庭の生活、国民の生活は、10%を受け入れる許容範囲を持っていないことをね。自覚なされないで大ごとしますねえ。ですから、もう物凄く空洞化してますから、青年たちの4割から6割の方が200万円で生きていかんといけんという、もう壊れてますから日本の社会はねえ。それに10%かけられたら、もう皆さん、難儀されますねえ。反対とか賛成じゃありませんよ。国会で審議されて皆さんが決められることですから、だけど、そこを自覚しないとこの国のかじ取りを誤りますですねえ」

記者殿「過去の名刺ですか」

吉村親房「その名刺は、全部現役でございますよ。昔の名刺ではありませんよ。その経歴は全部現役です。私は現役です」

記者殿「珠算暗算研究者はいつからですか」

吉村親房「下商の学資を頂くことと、やってくれという近所の方と親戚から要望されてね。16歳からやっているんですよ。ですから61年でございます。それで申し上げておきますけど、私は総理大臣からね、珠算教育功労章、それから連盟からといろいろ頂いてます。公益活動。それだから、皆さん部分的に捉えられずに、私は公益教育活動を61年ボランティア